

令和7年 3月 6日

岩沼市議会議長

殿

会派名 自由民主党政策フォーラム

代表者名 高橋光孝

調 査 研 究 等 報 告 書

実施期日	7年 2月 4日（火）～ 7年 2月 5日（水）
参加者氏名	高橋光孝・沼田健一・佐藤一郎・酒井信幸・大村晃一・岡田みつえ
調査地等及び調査事項等	(1) 調査地・研修場所（栃木県足利市 足利市役所） 日時 7年2月4日午前・午後1時30分～3時00分 調査・研修内容 出張議会（出前授業）について
	(2) 調査地・研修場所（茨城県境町 S-L a b 1 s t. ） 日時 7年2月5日午前・午後1時00分～3時20分 調査・研修内容 ふるさと納税の取組について
	(3) 調査地・研修場所（ ） 日時 年 月 日午前・午後 時 分～ 時 分 調査・研修内容

※ 別途報告書を作成の上、添付してください。

※ 報告書には、報告者氏名、調査・研修目的、調査・研修内容及び効果・成果等を記載の上、その他調査・研修内容が分かる資料（視察時資料、研修資料等）を添付してください。

I	調査地	栃木県足利市（人口 138,607 人 R6. 12. 1 現在 面積 177.76 km <sup>2</sup> ）
	調査月日	令和 7 年 2 月 4 日（火）
	調査事件	出張ぎかい（出前授業）について
	概要	<p>(1) 取り組みに至った経緯について          未来を担う子供たちに地方議会に対する興味・関心を持ってもらうことを目的に平成 30 年度から市内の中学校 3 年生を対象とした出前授業を実施した。同時に市議会だより編集委員会と議会報告・意見交換会執行委員会を平成 30 年に広報公聴委員会とし令和元年に県内初の常任委員会化し広報公聴常任委員会となり、令和 5 年からワークショップ形式で足利市のまちづくりを考えてもらう内容に変更し、名称も「議会を知ろう！～中学校出張ぎかい～」変更して中学校 7 校で実施してきた。</p> <p>(2) 出張ぎかい（出前授業）の進め方について</p> <p>(ア) 開催日までの準備と進め方について          実施年間計画の作成、学校へのアナウンス、実施希望校の取りまとめ、実施内容の検討、台本の作成、チーム編成、練習会、中学校との打合せなど</p> <p>(イ) 当日の出前授業（ワークショップ形式）の進め方について          アイスブレイク（議員自己紹介）2 分、クラス紹介 1 分、足利市議会紹介動画視聴 4 分、ワークショップ 26 分、発表（2 班）7 分、講評 5 分、質問 5 分を 50 分基本のタイムスケジュールとしている。ワークショップの手法は、みんなであれこれ考えてもいい案が出てこない、問題定義がずらりと書かれた資料を見ても頭の中で整理ができない事から、データ収集・カード化・グルーピング・懸念化・文章化をスムーズに進められる付箋紙を活用した KJ 法を取り入れている</p> <p>(ウ) 出前授業終了後の報告書提出までの進め方について          生徒、教師、議員に対し、アンケートを実施し実施報告書を作成。広報公聴委員会で実施報告書の内容を決定し、正副議長、正副委員長、担当者が市長及び教育長に提出。          実施報告書の内容は実施概要、実施結果、生徒のアンケート結果、先生の所見、議員の所見、総括となっている。</p> <p>(3) 出張ぎかい（出前授業）で使用している足利市議会紹介 DVD 詳細について          市議会は何をすところ？ 市議会のしくみとは？ 市議会活動のながれについて 市民の権利とは？の内容を 4 分にまとめている。</p> <p>(4) 課題や問題点について          今まで公民の授業で学ぶ中学 3 年としていたが、受験を控えている事から、開催時期や対象学年の再検討、50 分コースではワークショップの時間が足りず時間配分の再検討。議員側の出張ぎ</p>

		<p>かいへの取組の温度差が多く、限られた時間の中でスムーズに行われるように議員側の事前準備取り組む必要があり、説明の仕方や生徒への声掛けなど対応の工夫も必要と感じている。</p>
	<p>会派の まとめ</p>	<p>足利市議会では、議会報告会・懇談会を実施していたが、批判や苦情・要望ばかりが多く、議会報告会の本来の目的が達成できていないと感じていた。平成30年に中学校に対する出前授業を検討し、同時期に広報公聴委員会が常任委員会となり平成30年度から出前授業を開始した。その後コロナ禍でのオンラインや内容の検討など変更を加えて令和5年より出張ぎかいとしておこなわれるようになり、生徒たちが能動的にまちづくりについて考える機会となったことは大きく評価され、今までに年により変動はあるものの全中学校で実施された。</p> <p>当市議会も以前は議会報告会をおこなっていたが、足利市同様の理由ですとおこなわれていない中で、議会を知ってもらう方法の一つとして有効な方法と考える。一方的な説明ではなく、一緒に考えるワークショップ形式を取り入れているのが参考になった。まず学校を対象としたワークショップ形式の出張ぎかいから始め、対象を絞った社会人に広げられるように検討するべきと考える。</p>
II	調査地	<p>茨城県境町（人口 23,877 人 R6. 10. 1 現在 面積 46.59 ㎢</p>
	調査月日	<p>令和7年2月5日（水）</p>
	調査事件	<p>ふるさと納税の取組みについて</p>
	概要	<p>(1) 寄付金が多くなっていった経緯について 平成28年に(株)さかいまちづくり公社が設立され、ふるさと納税事業をはじめ道の駅運営など指定管理者となり、商品の開発から中間事業者としての役割、PRなど一括しておこなうことにより迅速にニーズに対応して利用者にあわせて選ばれる返礼品開発をおこなっている。</p> <p>(2) 返礼品の開発方法（地元企業との連携状況）について 地元産に干し芋など地元産の商品開発を中心におこなっており、必要なものは、新たに生産委託などおこない需要に対して、欠品など出さないようにしている。製品づくりには地元の雇用も多く創出しており、地元企業の商品開発のアドバイスなどもおこなっている。一番の特徴は、返礼品で人気があるものは逆六次化として、町内で作れるものは作る、取り寄せられるものは取り寄せ加工する、例えばうなぎを仕入れ町内で加工することで人気返礼品となっている。</p> <p>(3) 返礼品のPR方法について 一般的なふるさと納税サイトへの掲載はもちろん行い、一般的なPRもおこなっているが、一番の特徴は(株)さかいまちづくり公社が中間事業者の役割を担っている事に対応がとにかく素早い事、そしてSEO対策に力を入れ、メルマガを駆使して、一度寄付いただいた方に、同返礼品の同時期での寄付や別の返礼品の紹介などおこな</p>

		<p>いっている事で、約7割の利用者が別の返礼品に対しての寄付もおこなわれている。</p> <p>(4) 視察対応窓口となっている(株)さかいまちづくり公社との連携について</p> <p>(株)さかいまちづくり公社が中間事業者を担っている事で、すべてが境町中心で動いており、新しい返礼品掲載は翌日には完了できる、中間事業者が町内にあることから中間事業者の納税が境町に入る、中間事業者の手数料分が返礼品価格に影響する中、町内返礼品全体での3割ルールの調整が容易に出来ており、寄付者に対して返礼品が選ばれる優位性が増している。</p> <p>(5) 課題や問題点について</p> <p>さかいまちづくり公社として、現状の問題点は新たな商品をどれだけ出せるか。という前向きな課題があるが現状では特に問題らしい課題や問題はないようだ。</p>
	<p>会派の まとめ</p>	<p>境町のふるさと納税は、(株)さかいまちづくり公社が、返礼品開発、中間事業者、自治体が行う総務省への申請など全てを担っており、とにかくスピーディで寄付者に合わせた商品開発、通販なら定番のメルマガなど駆使してふるさと納税寄付額を約100億円迄押し上げていた。</p> <p>当市においては、新返礼品登録を依頼しても中間事業者で止まり長い時では3か月もサイト掲載にかかり、返礼品自体出せない、ふるさと納税のピークに間に合わないなど、中間事業者の対応が非常に良くない。</p> <p>さかいまちづくり公社によるとR社は80以上の自治体を抱え、岩沼市は寄付額からしても間違いなく後回しにされているとの事で、返礼品協力事業者も増えず、逆に減るのではないか、新商品開発に力を入れられないなど悪循環になりかねない。また、返礼品掲載が迅速におこなわれないことで岩沼市への寄付額においてもかなり不利益が生じていると思われる。中間事業者を変えるか、複数の中間事業者を使い競争で早くて対応が用法を選べるようにすることが急務と考える。</p>